

障害者歯科保健医療推進ワーキンググループの報告について

【第1回WG（令和元年7月16日）】

協議事項：障害者歯科医療の推進に向けた調査結果（概要）、調査結果（概要）から見えた課題及び取組の方向性について検討

<主な意見>

- 調査解析についての要望。（→ 調査結果報告書に反映）
- 家族の方や職員の方が、どんなふうに口の中を見たらいいのかな等をアドバイスできるようなツールが必要。（→ 参考資料3を新たに作成）
- 歯科医療機関の状況のデータベース化を東京都にやってもらい、それをベースにいろいろな機関が連携していくような取組を推進してほしい。（→ 資料2-2を実施）
- 通院の理由としては、歯の清掃や定期的に通うなどが非常に多く、治療中心からすごく変わってきたと感じた。
- 歯科治療を受ける上で困っていることとしては、未回答が多く、何に困っているのかを言うことができない、あるいは本人が認識していないというところが一番の問題である。どこを解消すれば本人たちの不安を取り除くことができるのかというのが本質的な問題。
- 歯科医療機関に望む事については、多様性を持っており、ご本人の意見に加えて、付き添いの家族や施設職員がいかに安心して歯科受診ができるかも重要。健常者の方と同じように治療を受けることを良しとする家族もいれば、個別でやってほしいという家族もいる。歯科医療を推進していく上において、いろいろなタイプの診療所を地域につくっていくというのが一つの答えになるのではないかと思う。

【第2回WG（令和2年2月3日）】

協議事項：障害者歯科医療の推進に向けた調査結果報告書（資料1-2）、調査結果から見えた課題及び令和2年度の新たな取組について

⇒ 調査結果から導き出された方向性（歯科診療所においても障害者を受け入れており、歯科診療所も含めた歯科医療機関の情報共有及び連携の推進が必要である。治療を受けるに当たり、歯科医療機関のスタッフの対応力が重要視されている。）を踏まえた以下の取組の実施について説明。

- ①障害者歯科に関する歯科診療所の情報の見える化（障害者ご本人やご家族、事業所職員、歯科医療機関それぞれが参考にできるよう）
- ②歯科医療機関同士の連携の強化に向けたツール（診療情報提供書など）の作成・周知
- ③障害者の方への対応や、配慮の方法など障害特性に応じた基礎的研修の実施

<主な意見>

- 事業所の職員が、口腔ケアの大切さというものをいま一度認識し、知識を高めて、利用者の口腔ケアにつなげることも必要。
- 家族が高齢になって通院介助が難しくなり、通院が困難になっているケースもあるのでは。
- 近くの歯科診療所が、一次医療機関として十分役割を果たしていくという体制整備が、まずはじめの取組として重要。
- 障害者を診療するスキル等はあるが、うまく患者とつながっていない医療機関もあるようだ。情報の見える化により、うまくつなげられたら。
- 情報の見える化については、高齢の家族等にもうまく情報発信できるような取組も必要。
- 都立心身障害者口腔保健センターの研修を受けた歯科医師について、本人や家族、職員等にも分かるように、院内に掲示できるステッカーを配布するなどしてほしい。